

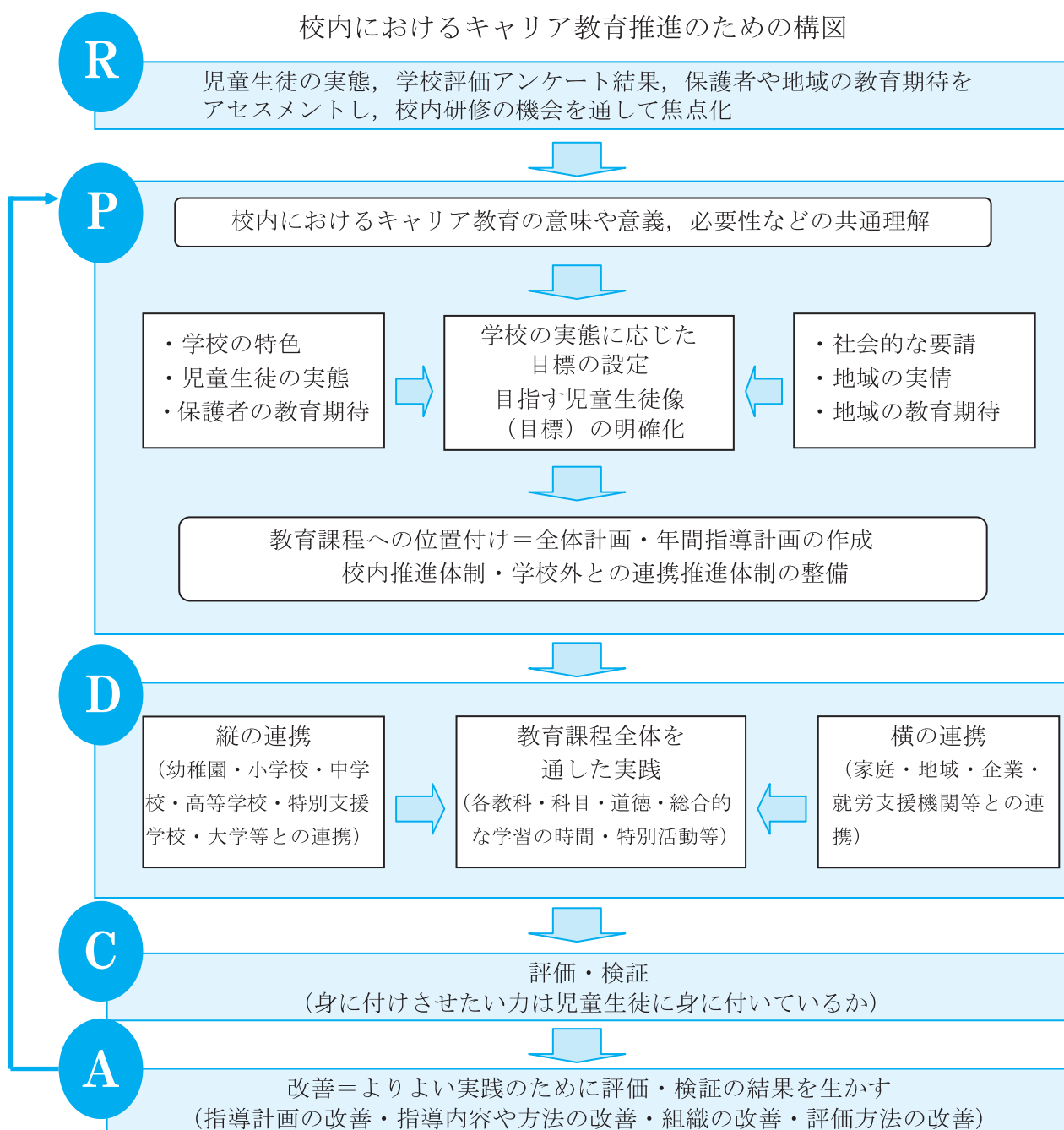
IV キャリア教育の充実に向けて

1 校内の体制づくり

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して体系的に取り組むことにより、そのねらいを達成することができます。そのためには、学校全体で、全教職員が一丸となって、キャリア教育推進のために協働できる組織や体制づくりが必要となります。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校においては、児童生徒や地域の実態に応じて学校ごとに焦点化・重点化して全体計画を作成し、計画・実践・評価の一体化を図ることが重要です。

(1) R-PDCAサイクルによるキャリア教育の推進



① R (Research)

P D C A サイクルを円滑に推進するには、まず計画 (Plan) の前に、自校の児童生徒の現状や学校に対する保護者や地域の教育期待の内容を客観的事実として把握することが大切です。学校評価アンケート等の活用により、児童生徒の「よさと課題」を校内研修等を通して教職員間で可視化し、児童生徒が自己の将来についてどのように考え、今後どのような力を身に付ける必要があるのか等「基礎的・汎用的能力」の実態を調査し、共通理解を図ることが必要です。

② P (Plan)

明らかになった課題を解決するために必要な育成すべき能力・態度を焦点化し、教職員間で共有して、目標を設定し、計画を立てることが大切です。

目標を設定するためのポイント

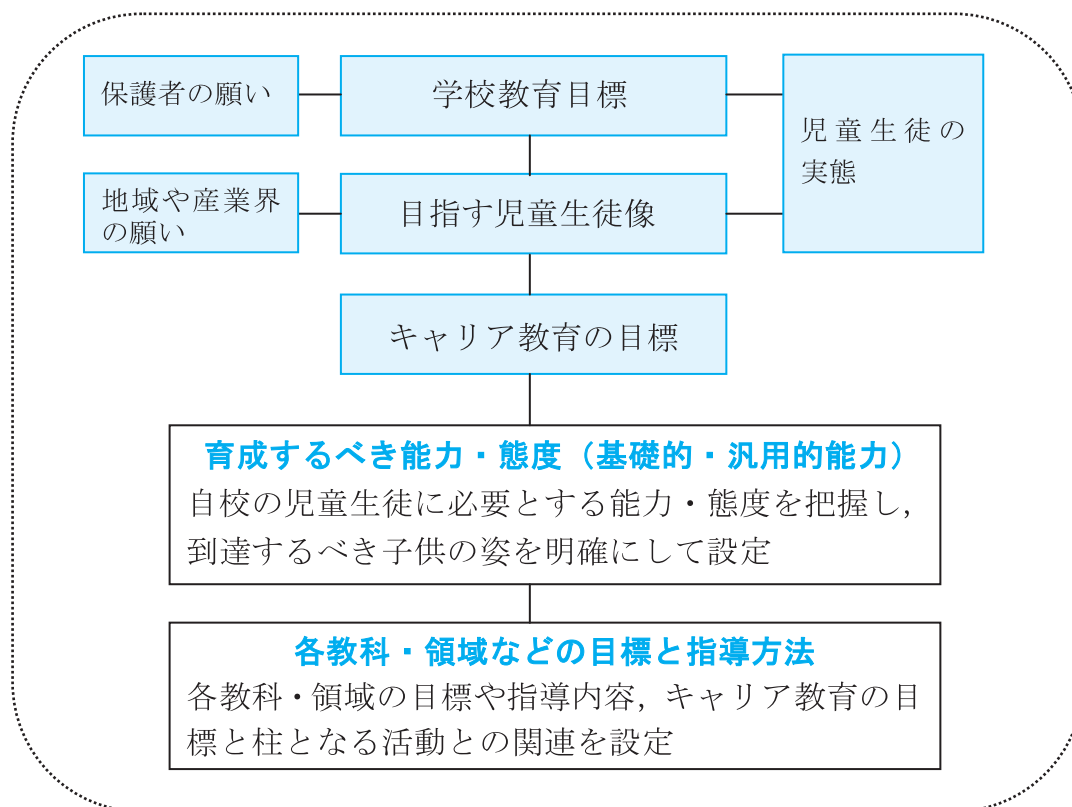
- 課題を解決するために育成すべき基礎的・汎用的能力の視点が含まれている
- 児童生徒に必要な能力・態度が育成されているか、検証が可能である

(ア) 全体計画の作成

全体計画は、児童生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力や態度を意図的・計画的に育成するために、各学校における教育目標や、育成したい能力や態度、指導内容と方法、各教科等との関連を示すものです。

まずは現在行っている取組をキャリア教育の視点で見直すことが必要です。

キャリア教育の全体計画作成における項目例



「P31 本県キャリア教育の全体計画（例）参照」

(イ) 年間指導計画の作成

年間指導計画は、各発達段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画に沿って作成する必要があります。

年間指導計画作成に当たっての留意点

- 各学校の児童生徒の実態や発達段階に応じた目標や内容にする
- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学年の取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る
- 入学から卒業までを見通して児童生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする
- 評価の視点を考慮し、評価方法を検討する
- 家庭や地域、学校間連携を考慮する

③ D (Do)

キャリア教育の実践においては、児童生徒一人一人がその発達段階における課題の達成を通して将来、社会人・職業人として自立していくために必要な基礎的・汎用的能力を身に付けさせる必要があります。

学校教育の中で実践できることには限りがあるからこそ「今」「この学校で」「この子供たちに」といった視点から、優先順位の意識を持つことが大切です。

実践についてのポイント

- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの教育活動の特質を生かしつつ、相互の関連を図りながら実践する
- 児童生徒の成長や変容を把握しながら、必要な場合はフォローアップや計画の修正を加える
- 面談だけでなく、柔軟に個別支援の機会を捉えて、児童生徒が自分の長所や可能性に気付いたり、将来を展望したりする契機となり得るようにコミュニケーションを図る

④ C (Check)

キャリア教育に関する評価・検証(Check)とは、あらかじめ設定された計画(Plan)に基づく実行(Do)がどのような成果を上げたのかを検証することです。

キャリア教育における評価には、「児童生徒の成長や変容に関する評価」と、「教育活動としてのキャリア教育全体の評価」の2つの視点があります。各学校の目標及び育成する能力や態度、教育内容・方法等との関係から、児童生徒にどのような力が身に付いたのか、その育成のための教育活動は効果的であったのか、指導計画は適切であったのかなど、多面的に評価することが必要となります。

児童生徒の成長や変容に関する評価を行うためのポイント

- 各教科・科目，道徳，総合的な学習の時間，特別活動等の目標やねらい，また各教科等の評価規準にキャリア教育の視点を盛り込む
- 進路指導の評価にキャリア教育の視点や内容を取り入れる
- 指導と評価の一体化を図るために，キャリア教育に関する学習活動の過程や成果に関する情報を集積した学習ポートフォリオを作成し，積極的に活用する

評価に生かせる学習成果物の例



- ・ 児童生徒が作成したレポート，ワークシート，ノート，作文，絵等
- ・ 学習活動の過程や成果の記録
- ・ 自己の将来や生き方に関する考え方の記述(進路相談シート等)
- ・ 児童生徒の自己評価や相互評価の記録(評価カード等)
- ・ 保護者や地域，職場の人々による他者評価の記録(体験記録カード等)
- ・ 教師による行動観察記録，進路学習などで行った検査や調査の結果等

教育活動の評価のポイント

- 目標の設定については，具体的で妥当であったか，目標設定過程への教職員の参加度，理解度についての視点を盛り込む
- 実践中の評価については，児童生徒は積極的に取り組んでいるか，理解はどうか，期待した取組をしているか，期待した変化や効果の兆しはあるか，教職員が適切な指導を行っているか，保護者などへの説明は適切であるか，児童生徒の感想はどうかといった様々な視点を盛り込む
- 評価の方法については，評価のための計画は適切に立てられていたか，評価方法やそのための資料は前もって用意されていたか，評価方法は妥当であったか，教員，児童生徒の評価への理解は十分であったかなどの視点を盛り込む

⑤ A (Action)

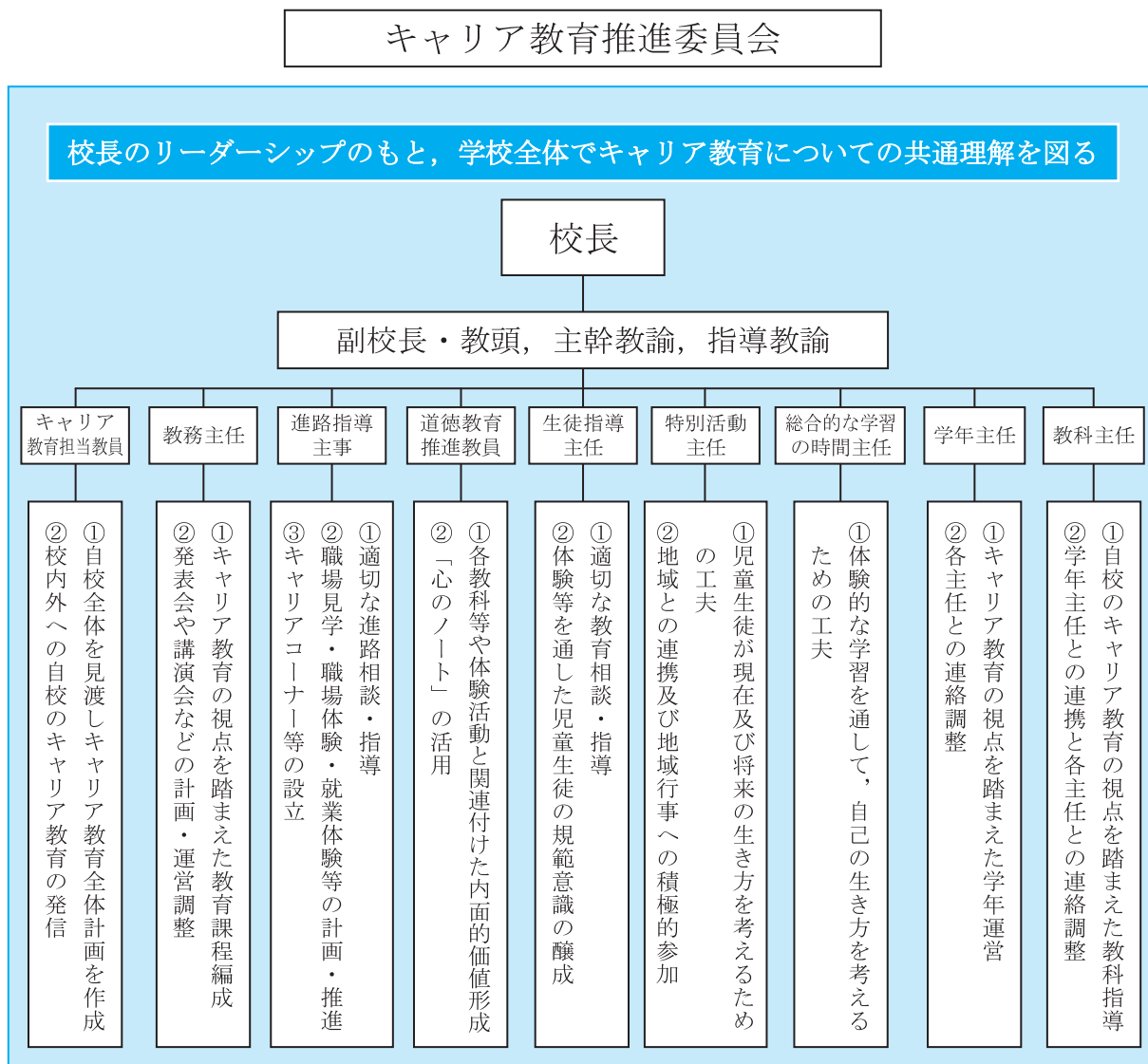
評価によって児童生徒の変容が明らかになると，次には評価を改善につなげる取組が必要となります。

6つの視点での評価の具体的活用(例)

- 不足している能力や態度を向上させるために，指導計画の改訂に生かす
- 教職員が課題を共有できるように校内研修に生かす
- 全ての教職員が共通した意識を持てるように運営組織の改善に生かす
- 学級や学年単位で児童生徒の状況を把握し，個別的な支援・指導に生かす
- 連携した双方の学校や児童生徒の変化を把握し，学校間連携に生かす
- 体験的な学習活動における効果を把握し，地域・社会連携に生かす

(2) キャリア教育を推進するための校内組織体制

学校の教育活動全体を通してキャリア教育を推進するためには、キャリア教育を支えるための校内組織体制が必要となります。全教職員がキャリア教育の意義を理解し、関連する分掌全てを結び付けることができるキャリア教育推進委員会等の組織を整えていくことが求められています。



(文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(平成23年11月)
「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」(平成23年5月))をもとに作成

(3) 校内におけるキャリア教育の研修の充実と指導力の向上

学校全体でキャリア教育を推進するに当たっては、教職員間でキャリア教育についての理解を深める必要があります。

キャリア教育は、教職員がチームを組んで互いに持ち味を発揮して指導に当たることによって、児童生徒の多様な学習状況に対応することができるので、各学校においては、教職員全体の指導力向上を図る必要があります。したがって、校内研修を充実させることは、各学校にとって大切なことです。

【 校内研修の内容（例） 】

	研修のテーマ	ねらい
第 1 回	キャリア教育の意義	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校におけるキャリア教育の意義を理解する。 キャリア教育の推進に不可欠な教職員全体の意識を高める。 例) 講師の活用やグループにおける協議等
第 2 回	キャリア教育の目標の設定	児童生徒のキャリア発達上の課題や育成したい能力・態度を明らかにし、キャリア教育の目標を設定して、目指す児童生徒像を明らかにする。 例) 目指す児童生徒像を明確にし、全体計画や年間指導計画を作成
第 3 回	キャリア教育の視点に立った授業づくり	指導計画を作成する能力や、授業研究により指導力の向上を図る。 例) 各教科等の指導計画の検討や授業研究会での協議
第 4 回	家庭や地域との効果的な連携	家庭や地域との連携の重要性や、各学校の特性を生かした効果的な連携の進め方について考える。 例) 講師を活用し、教職員・保護者を対象とした講演会の開催、保護者や地域の人々に協力を依頼できる活動内容の検討
適 時	キャリア・カウンセリング	基本的なカウンセリング能力が全教職員に必要であることを理解し、その実際を学ぶ。 例) 教職員と児童生徒のコミュニケーション能力を高める相談活動

(参考) 校内のキャリア教育推進体制を確認するためのチェックシート

項目	チェック内容	チェック欄
1	学校教育目標にキャリア教育を位置付けている	
2	キャリア教育の全体計画を立てている	
3	キャリア教育を学校の教育活動全体で行っている	
4	校内にキャリア教育推進委員会等を設置している	
5	キャリア教育に関する校内研修を実施（計画）している	
6	教職員全体がキャリア教育について共通理解している	
7	地域の異校種間でキャリア教育に関し連絡協議会を設置するなどの連携を図っている	
8	職場見学・職場体験・就業体験等を実施している	
9	職場見学・職場体験・就業体験等の事前・事後指導を計画的に行っている	
10	学校だより、PTAだより等でキャリア教育の広報活動を行っている	
11	社会人講師の活用等、地域の教育力を活用している	
12	ハローワーク等関係諸機関と連携している	
13	学校評価等でキャリア教育の評価を行っている	
14	評価結果に基づき、指導等の改善を図っている	

2 幼・小・中・高の学校間連携（縦の連携）

（1）学校間連携のポイント

キャリア教育は、一人一人の人間の成長にかかわるものであり、幼稚園から小学校、中学校、高等学校において連続性を保つことが重要となってきます。

各学校において、体系的なキャリア教育の充実を図るためには、異なる学校種の活動について理解を深め、系統性のある指導計画を作成することがポイントです。

円滑な連携を図るためのポイント

- 異校種間の活動について、教職員が互いに理解を深める
- 発達の段階に応じた系統性のある指導計画を作成する
- 幼児児童生徒のキャリア発達に関する情報を引き継ぐ

（2）学校間連携の具体的な活動

- 上級学校訪問（説明会，見学会，体験入学，学校行事等）
- 児童生徒の職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）の受入れ
- 異校種間における幼児児童生徒の交流（授業・学校行事・部活動）
- 体験授業・活動の実施（実習，出前授業）
- 教職員の交流（合同研修会，授業見学会・公開授業等）

（3）学校間連携の効果

① 幼児児童生徒にとっての効果



- 上級学校との交流により，学校についての情報を知ることによって，小1プロブレムや中1ギャップなどの不安が解消されることにつながる
- 異校種間の幼児児童生徒との交流により，人間関係形成能力の育成につながる
- 自分の進路について考える機会となり，将来の進路が広がり，学習意欲の向上や生活全般の向上につながる

② 学校や教職員にとっての効果



- 幼児児童生徒の発達段階を十分に考慮し，見通しを持って幼稚園教育から系統的に指導をすることができる
- 教職員が互いに理解を深めることにより，計画的・継続的な学習指導や生徒指導を展開することができる
- 学校間で交流授業を行うことで，各教科や領域の学習を通じて指導内容や指導方法を共有することができる
- 教職員が互いのよさを取り入れることで，相互の指導の幅が広がり，意識改革にもつながる

【県内での学校間連携の取組事例】

○ 小学生と中学生の交流



【花の栽培体験】

小・中学生
生合同の
花の栽培
への取組

中学校での職場体験
学習発表会に小学生
を招待し，中学生に
発表させることで，
小学生に身近な自己
の将来をイメージさ
せる取組



【職場体験学習発表会】



【講演・出前授業】

小・中学生合同によ
る講演会において，
社会人講師による
「講演・出前授業」
を開催し，学校での
勉強の大切さを学ぶ
取組

○ 高校生と幼稚園児・小学生の交流



【田植え体験】

高校生と園児，小学
生と一緒に田植えや
芋掘りを行うこと
で，働くことの喜
びや，ものづくり
の大切さを学ぶ
取組



【芋掘り体験】



【出前授業】

高校生による小学
校への出前授業
により，教える
高校生も教えら
れる小学生も学
習を深め，交流
を図る取組

○ 異校種間における教職員交流



【教職員研修会】

異校種間における
授業公開や研究協
議会を通して，系
統的な学習の在り
方を理解する取
組

